❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
❑栃木県原発崩壊前//0.030～0.067μSv/h❑

◆ひとこと電話で声を上げよう！

放射能から子どもを守るため
園庭、校庭の表土を除去してください
給食は放射性物質のない食材を使って

❑保育園･幼稚園//子育て支援課0288-21-5186
❑小中学校//学校教育課　0288-21-5181
❑環境課　0288･21･5152

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm
マイクロシーベルト/以上～未満

0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1-0.2	155ヶ所	28.8%
0.2-0.3	187ヶ所	34.8%
0.3-0.4	152ヶ所	28.3%
0.4-0.5	30ヶ所	5.6%
0.5-0.6	10ヶ所	1.9%
0.6-0.7	2ヶ所	0.4%
0.7-0.8	1ヶ所	0.2%

放射能汚染の地に、取り残された日光の子どもたち

日光市立小中学校の放射線量　〈2012.01.10～13−01.16～20/月-金〉

①栃木県、県教委会測定/2011.05.13-19//②③日光市測定、最低値、最高値④平均/繰り上げ

	①	②	③	④			①	②	③	④
今市小	0.37	0.12	0.32	0.22		下原小	0.54	0.23	0.44	0.35
今市2小	0.41	0.16	0.42	0.25		三依小	0.32	0.12	0.28	0.19
今市3小	0.38	0.13	0.29	0.22		栗山小	0.31	0.14	0.18	0.16
南原小	0.30	0.09	0.27	0.17		湯西川小	0.16	0.07	0.17	0.12
落合東小	0.17	0.12	0.22	0.17		足尾小	0.34	0.24	0.36	0.28
落合西小	0.31	0.11	0.20	0.16		今市中	0.40	0.17	0.46	0.25
大桑小	0.65	0.27	0.33	0.31		東原中	0.34	0.13	0.30	0.21
轟小	0.54	0.22	0.45	0.35		落合中	0.23	0.13	0.21	0.16
小百小	0.71	0.28	0.51	0.43		豊岡中	0.59	0.17	0.36	0.25
大沢小	0.22	0.15	0.21	0.19		大沢中	0.23	0.10	0.24	0.14
大室小	0.30	0.17	0.29	0.24		小林中	0.37	0.19	0.26	0.23
猪倉小	0.19	0.15	0.22	0.19		日光中	0.42	0.17	0.29	0.25
小林小	0.37	0.20	0.34	0.27		中宮祠中	0.26	0.15	0.25	0.19
日光小	0.36	0.12	0.32	0.19		東中	0.45	0.14	0.25	0.20
清滝小	0.33	0.14	0.42	0.29		小来川中	0.30	0.22	0.34	0.28
野口小	0.56	0.30	0.40	0.35		藤原中	0.55	0.18	0.31	0.24
中宮祠小	0.25	0.11	0.36	0.21		三依中	0.31	0.13	0.29	0.18
所野小	0.49	0.15	0.35	0.23		栗山中	0.33	0.15	0.21	0.18
小来川小	0.32	0.21	0.36	0.28		湯西川中	0.17	0.08	0.15	0.13
安良沢小	0.38	0.16	0.27	0.22		足尾中	0.43	0.20	0.34	0.28
鬼怒川小	0.55	0.22	0.47	0.37		単位/毎時マイクロシーベルト//μSv/h				

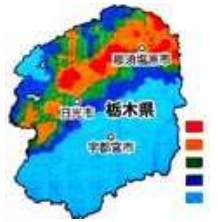
〈測定地校庭の中心地//測定時間午前9時//小学校/地表50cm//中学校/地表1m〉

❖測定場所に疑問/50mメッシュで学校全体と地表、ホットスポット測定が必要
❖除染対象 0.23μSv/h は大人基準。子どもは 2～3 倍敏感、最高値、地表の考慮を！

〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288･26･0130//nairamdal-1871@dream.jp

放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.01.27//no.14



赤10～30万,黄 6～10万
緑 3～6 万、紺 1～3万
水色～1万　ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

奥日光の環境省所管施設の測定が
なぜか、修学旅行につながる　謎？

20日、環境省は、日光国立公園の放射線量を発表したと報道されました。そして、この発表は、修学旅行の不安を取り除くために測定したかのような報道です。

❖　❖　❖

下野新聞は、「日光国立公園-放射線量、基準値下回る」〈環境省41地点で調査〉として、さも、横浜市の市民団体の動きなどに対しての文面です。また、朝日は、「日光への修学旅行『線量影響なし』〈環境省〉」との見出しです。

以上の紙面は、これまで話題になっていた横浜市をはじめ首都圏の修学旅行への放射線の心配に対する、環境省の安全のお墨付きをもらったような書き方です。

❖　❖　❖

私だけではなく、知人も気が付きました。どこかおかしい。測定は12月14日、発表は、1月20日です。なぜ、1か月以上も遅れたのでしょうか。また、環境省は、修学旅行者のためにわざわざ日光市だけ放射能測定を実施するでしょうか。さらに、測定は、湯の湖周辺、戦場ヶ原周辺です。なぜ、中禅寺湖など入っていないのでしょうか。

❖　❖　❖

環境省の放射線量測定の目的は、「日光国立公園内にある環境省所管の施設等を対象とし、施設の放射線対策の検討に必要な基礎的情報を収集するため、施設及びその周囲で放射線量等の測定を行ったもの」で、除染基準0．23μSv/hの対策と、ホットスポットの測定です。そして、内部資料として公表は考えていませんでした。

なぜ、公表したのでしょうか。その謎は、「結果概要」として、測定線量の報告とともに、「･･･0.23μSv/h以下であり、修学旅行等の利用者に影響があるとは考えられない」という一文が付けられていました。

以上で、なぜ、1か月以上もたって、公表になったかの謎が解けました。環境省の担当者は、「日光市の10月の測定値とほぼ変わりがないということで･･当初、保留していた」「いろいろ観光、そういうことに

給食は一食ごと測定し放射能 ZERO の安心
１日でも早く以前の放射線量に戻そう
政府･県･日光市の積極的な除染対応を望む

影響が出ていることで」「日光市の方で、まあ放射線のことで懸念があるという動きがありましたので」と、事前に接触があったようです。環境省日光自然環境事務所は「日光とのやりとりは、してます。してます。それは、本省の指示のもとにやっている」と言っています。日光市観光部長は「･･･環境省の取り組みも一助になる。今後も関係機関と連携し、修学旅行関係者などの払しょくに向けて努力する」（下野 01.21）とのことですが、部長は、環境省との関係を否定しています。

では、なぜ、どこから、環境省の放射線測定の目的と関係ない「修学旅行等の利用者に影響があるとは考えられない。」との文が浮かび、注入されたのでしょうか。

まさに、日光市は、修学旅行の放射線不安が広がるなかで、ちょうどよい情報を偶然手に入れたかのようです。

❖ ❖ ❖

そして、新聞各社は、この真実に気づくこともなく、環境省、日光市にうまく踊らされたということでしょう。それとも、この事実を知っての報道なのでしょうか。怖いです。

1μSv/h 以下は「問題ない」と言う日光市
取り残された日光の子どもたち、市民

新聞各紙は、単なる誤りで済まされません。市内の子どもたちには無関心です。

日光市の修学旅行生に対する姿勢は、改めて、修学旅行で児童生徒が訪れる観光地の線量の測定を始め「子どもたちの安心の目安になれば」と、地上 1m と 5cm で、精度が高い測定器でていねいな測定です。

他方、市内の子どもたちは、校庭の中心地一点で、ひどい高放射線レベルで学校生活を送らせられています。（4P参照）市は「1μSv/h以下は問題ない」と言う姿勢です。さらに、「修学旅行生のためには、ホテル･旅館で使われる食材については、より細かく測定することも検討している」とのことです。市内の子どもたちには、全小中学校、保育園で、たったの週1回10～12点の食材の測定です。それも、1週間前に口に入れない別の食材の検査で誤魔化されています。

❑日光市は放射能除染やる気があるのか！！❑

日光市は、12月19日、政府の「0．23μSv/h以上の「除染状況重点調査地域」に指定されました。すでに1カ月を過ぎても、「環境省指定の測定器がない、10月にやった測定結果を利用できるかを問い合わせている」として、除染計画が動いていません。

すでに、栃木県では、12月に県有施設の測定をし、他の市･町も除染の動きが聞こえてきています。 〈5年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪-4〉次号へ

放射線測定します〈無料//日時相談〉0288-26-0130
自宅、公園など 調査してほしいところ測定します。相談ください !!

長野県/菅谷松本市長の講演から

『こどもと妊婦を放射線被ばくから守るために』

〈チェルノブイリ原発事故医療支援の経験を通して〉

2

子どもたちには年に2回の検査が//日本もそういう国に

事故から10年経っても、30km 圏内には人間が住めません。ホットスポットは、100km～300km 圏内にあります。雨や雪が降ったのです。福島の汚染も、30km 圏内の話ではありません。これからあちこちに出てくるでしょう。チェルノブイリ事故後、IAEA（国際原子力機関）が唯一原発事故の影響として認めたのが、小児甲状腺がんです。それまで、こどもに発症する甲状腺がんをみたことはありませんでした。

ベラルーシ共和国	
【小児甲状腺がん患者数推移】	
1986年（事故の年）	2人
1987年（1年後）	4人
1988年（2年後）	5人
1989年（3年後）	7人
1990年（4年後）	28人
1991年（5年後）	55人
1992年（6年後）	68人
1993年（7年後）	79人
1994年（8年後）	82人
1995年（9年後）	90人
1996年（10年後）	84人
1997年（11年後）	66人
1998年（12年後）	54人
1999年（13年後）	49人
2000年（14年後）	34人

放射性ヨウ素は、甲状腺にたまります。ガンマ線よりもベータ線からの影響が強いです。年齢が低ければ低いほど感受性が強いです。

小児甲状腺がんの推移は、最初の4年はほとんどなく、9年後の1995年にピークを迎えました。

福島第一原発事故後の枝野官房長官の会見にあった「ただちに影響はない！」は、その通りで間違った発言ではないです。実際に、チェルノブイリでもすぐには影響が現れなかった。 チェルノブイリの経験から、現在の幼児と思春期のこどもたちについては、定期的に経過を見ていく必要があります。ベラルーシ共和国首都ミンスクでは、チェルノブイリ事故後、こどもたちには年に2回の検査があります。日本もそういう国になってしまいました。福島だけの話ではなく、周辺地域も同様です。定期的に検査をして、できるかぎり早期発見することが必要です。ミンスクは、チェルノブイリ原発300km 圏より外にあります。ミンスクで、事故後10年経過したときのセシウム137の表面沈着は37000ベクレル／平米です。高汚染地域のゴメリは原発から150km 程度の場所で、モズーリは原発から90km 程度です。チェルノブイリでの人間が住めない基準は、150万ベクレル／㎡です。（日光市の地表放射能沈着量は、右上地図の赤 10～30 万、黄 6～10 万、緑 3～6 万、紺 1～3 万ベクレル/㎡。2011.08.02 換算）次号に続く